

# 中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

平成31年	1月～	3月実績
-------	-----	------

平成31年	4月～	6月見通し
-------	-----	-------

福井県商工会連合会



## I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 164企業（回答率99.4%）
6. 調査対象期間 平成31年1～3月期実績及び平成31年4～6月期見通し
7. 調査時点 平成31年3月1日（金）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.2%	100.0%
建設業	24	14.5%	24	14.6%	100.0%
小売業	51	30.9%	50	30.5%	98.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.7%	100.0%
合計	165	100.0%	164	100.0%	99.4%

### 9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について〈増加・上昇・好転〉の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

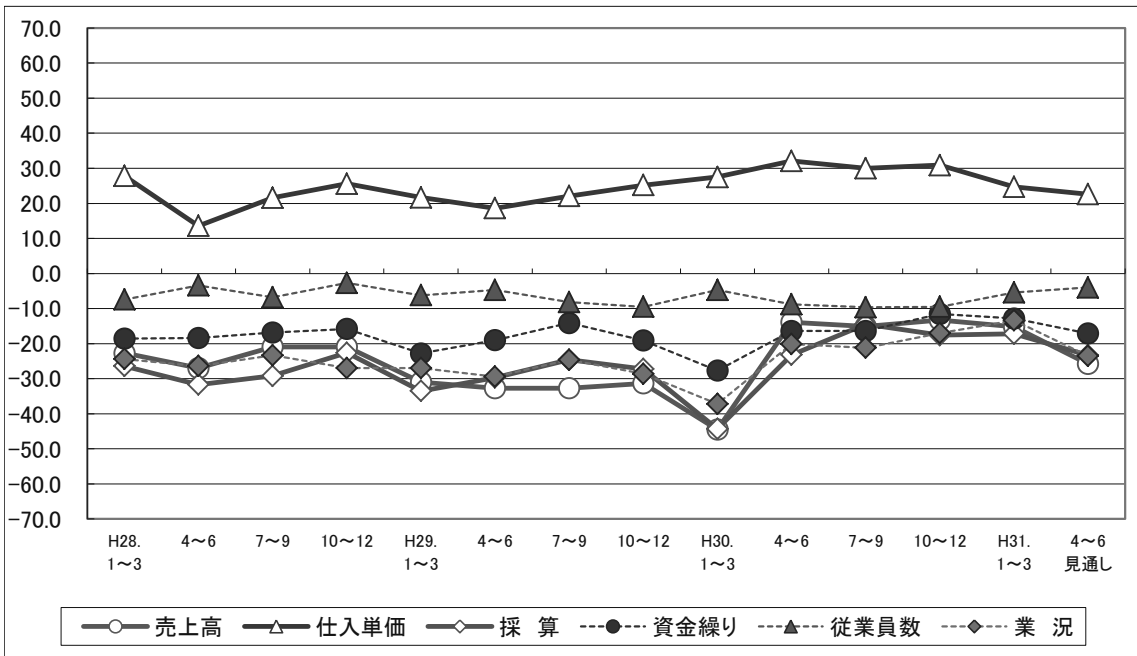
$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

### 10. 分析執筆者 福井県立大学 地域経済研究所長 教授 南保勝氏

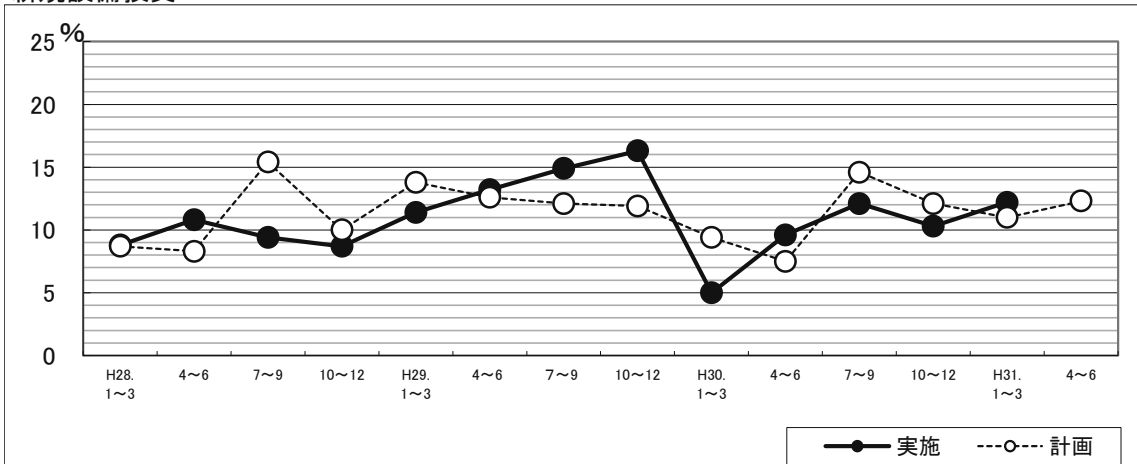
## 全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向推移(前年同期比:DI値)

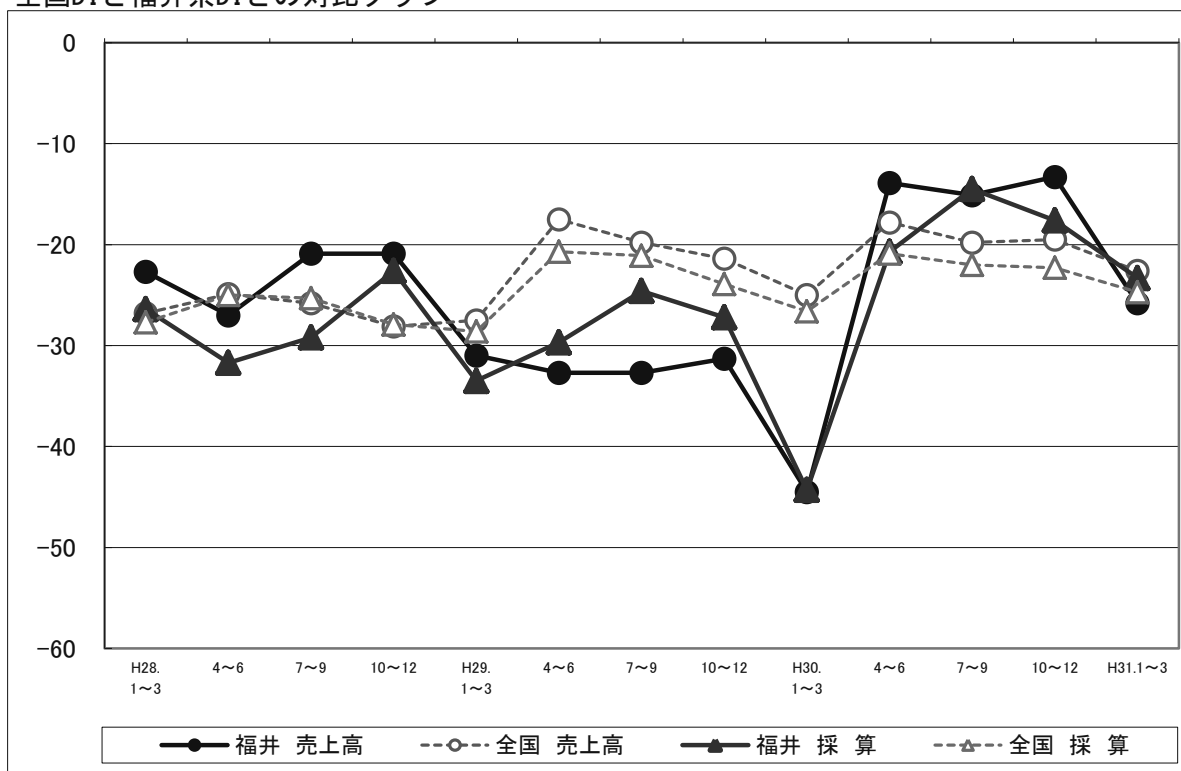
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H28.1~3	▲ 22.7	27.8	▲ 26.4	▲ 18.6	▲ 7.4	▲ 24.4
4~6	▲ 27.0	13.6	▲ 31.7	▲ 18.4	▲ 3.4	▲ 26.4
7~9	▲ 20.9	21.6	▲ 29.2	▲ 16.8	▲ 6.8	▲ 23.3
10~12	▲ 20.9	25.6	▲ 22.6	▲ 15.8	▲ 2.7	▲ 27.0
H29.1~3	▲ 31.0	21.7	▲ 33.5	▲ 22.8	▲ 6.2	▲ 27.0
4~6	▲ 32.7	18.6	▲ 29.7	▲ 19.0	▲ 4.7	▲ 29.4
7~9	▲ 32.7	22.1	▲ 24.6	▲ 14.1	▲ 8.2	▲ 24.6
10~12	▲ 31.3	25.2	▲ 27.2	▲ 19.1	▲ 9.5	▲ 28.6
H30.1~3	▲ 44.5	27.5	▲ 44.3	▲ 27.7	▲ 4.7	▲ 37.2
4~6	▲ 13.9	32.1	▲ 23.2	▲ 16.4	▲ 8.8	▲ 20.1
7~9	▲ 15.1	30.0	▲ 14.5	▲ 16.4	▲ 9.6	▲ 21.2
10~12	▲ 13.3	30.9	▲ 17.6	▲ 11.5	▲ 9.5	▲ 17.0
H31.1~3	▲ 15.2	24.7	▲ 17.2	▲ 12.8	▲ 5.4	▲ 13.4
4~6見通し	▲ 25.8	22.6	▲ 23.3	▲ 17.1	▲ 4.0	▲ 23.5



### 新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

平成31年1 - 3月期の福井県経済を概観すると、需要面では、雇用・所得環境の改善が続く中、百貨店・スーパー販売に持ち直しの動きがみられるほか、ドラッグストア販売やコンビニエンスストア販売などが良好に推移していることなどから、拡大基調の継続が期待される。ただ、供給面では、電子部品・デバイスなど主要産業を中心に拡大テンポが緩やかとなっており、これに通商問題や中国経済の先行きなど海外情勢の不確実性、さらに人手不足が追い打ちとなり一部の生産動向にかげりが出始めるなど、不安要素が増幅している。

こうした中、今期（H31年1-3月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値項目のうち4項目で改善、残り2項目で悪化となった。ちなみに、改善した項目は、仕入単価（逆指数）（前期30.9→今期24.7）、採算（前期▲17.6→今期▲17.2）、従業員数（前期▲9.5→今期▲5.4）、業況（前期▲17.0→今期▲13.4）。悪化した項目は、売上高（前期▲13.3→今期▲15.2）、資金繰り（前期▲11.5→今期▲12.8）であった。今回の調査結果では、悪化を示す項目が2項目にとどまり、県内中小企業の景況感は全国の動向とは裏腹に概ね回復基調にあることを裏付ける結果となった。ただ、先行き（H31年4-R元年6月期）については、6項目中4項目で悪化予測となっている。

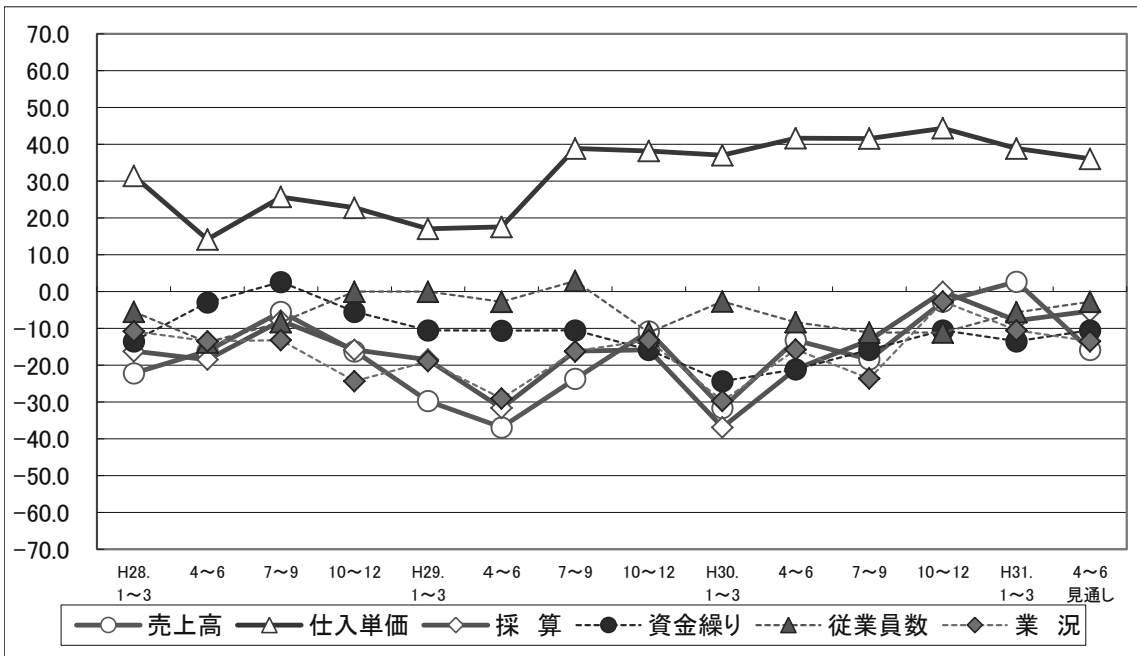
一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、売上高は、全国、福井県ともに多少の改善がみられたが、採算は全国、福井県ともに悪化傾向を示している。

そのほか、今期の新規設備投資については、何らかの設備投資を計画している企業ウェイト11.0%に対して実施した企業ウェイトが12.3%と、実施が計画を上回っている。また、先行き（H31年4-R元年6月期）については計画が12.3%となっており、投資マインドは横這いで推移することが予測される。

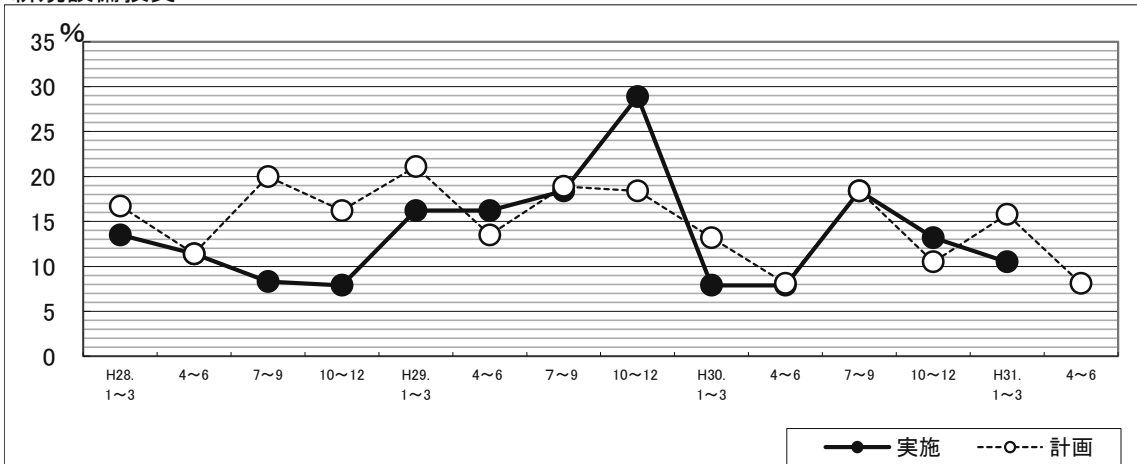
## 製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向(前年同期比:DI値)

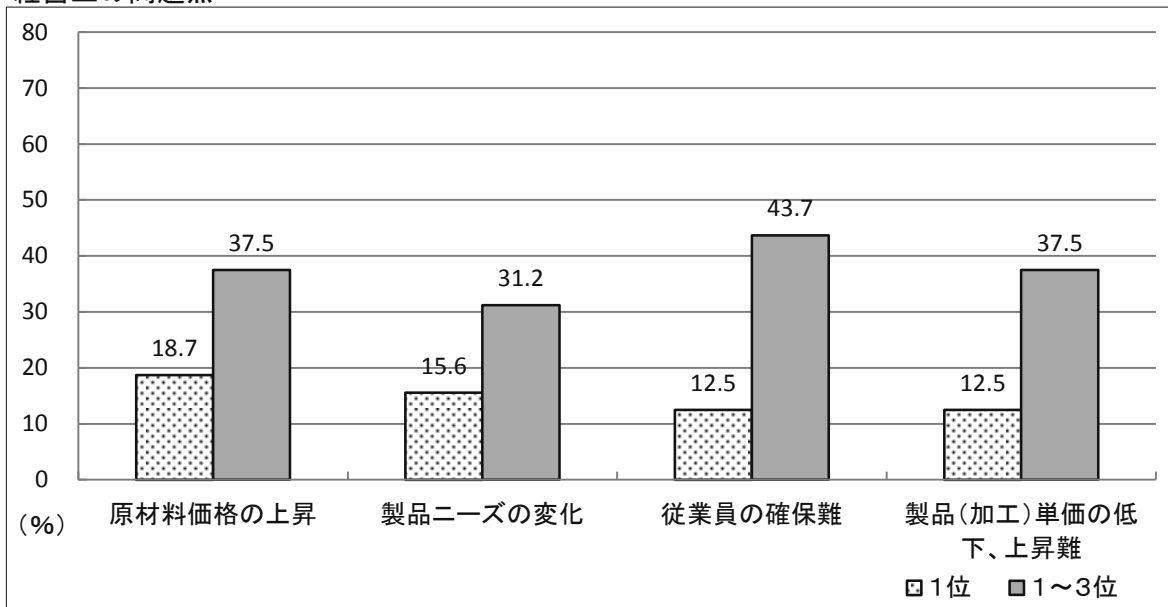
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H28.1~3	▲ 22.2	31.4	▲ 16.2	▲ 13.5	▲ 5.5	▲ 10.8
4~6	▲ 16.2	14.2	▲ 18.5	▲ 2.9	▲ 13.8	▲ 13.5
7~9	▲ 5.5	25.7	▲ 7.9	2.6	▲ 8.3	▲ 13.2
10~12	▲ 16.2	22.8	▲ 15.8	▲ 5.5	0.0	▲ 24.3
H29.1~3	▲ 29.7	17.1	▲ 18.5	▲ 10.5	0.0	▲ 18.9
4~6	▲ 36.9	17.6	▲ 31.6	▲ 10.6	▲ 2.8	▲ 29.0
7~9	▲ 23.7	38.9	▲ 16.2	▲ 10.5	2.9	▲ 16.2
10~12	▲ 10.8	38.2	▲ 15.8	▲ 15.8	▲ 11.1	▲ 13.2
H30.1~3	▲ 31.6	37.1	▲ 36.9	▲ 24.3	▲ 2.7	▲ 29.7
4~6	▲ 13.2	41.7	▲ 21.0	▲ 21.1	▲ 8.3	▲ 15.7
7~9	▲ 18.4	41.6	▲ 13.2	▲ 15.8	▲ 11.1	▲ 23.6
10~12	▲ 2.7	44.4	0.0	▲ 10.5	▲ 11.1	▲ 2.7
H31.1~3	2.7	38.9	▲ 7.9	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 10.5
4~6見通し	▲ 15.8	36.1	▲ 5.3	▲ 10.5	▲ 2.8	▲ 13.5



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・近年、一旦受注がなくなっていた旧来の取引先からの受注が回復し、景気が良くなってきていると感じている。
- ・全体的に材料代等が上がってきており、価格の見直し等の対策が必要である。
- ・加工単価が数十年上がっていない中で、最低賃金の引上げや有給休暇の取得推進等は企業にとって悪影響となっている。計画していた設備投資も考え直すことになった。

## 製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、地場産業では引き続き厳しい展開が続いているが、生産キャパに見合う受注高を確保し概ね堅調に推移、特に繊維は非衣料向けが堅調となっているほか、衣料向けに動きがみられることから、全体では緩やかに持ち直している。プラスチックも建築資材を中心に持ち直している。ただ、化学は医薬品が弱含んでいるほか、輸送機械などでも拡大基調に鈍化がみられ、非鉄金属（アルミ圧延製品）も、半導体製造装置向けなどが弱い動きとなっていることなどから、全体では足踏みとなっている。これらの動きに、主力の電子部品・デバイスでのスマートフォン向け受注の伸び鈍化を加えると、全体として拡大傾向に一服感がみられる。

こうした中、今期（H31年1 - 3月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち3項目で改善、3項目で悪化となった。ちなみに、改善した項目は、売上高（前期▲2.7→今期2.7）、仕入単価（逆指数）（前期44.4→今期38.9）、従業員数（前期▲11.1→今期▲5.6）。悪化した項目は、採算（前期0.0→今期▲7.9）、資金繰りの（前期▲10.5→今期▲13.5）、業況（前期▲2.7→今期▲10.5）であった。今回の調査結果では、県内製造業の景況感がバラつきを伴いつつ一進一退であることを裏付けている。また、先行き（H31年4 - R元年6月期）についても、6項目中4項目で改善予測となっている。

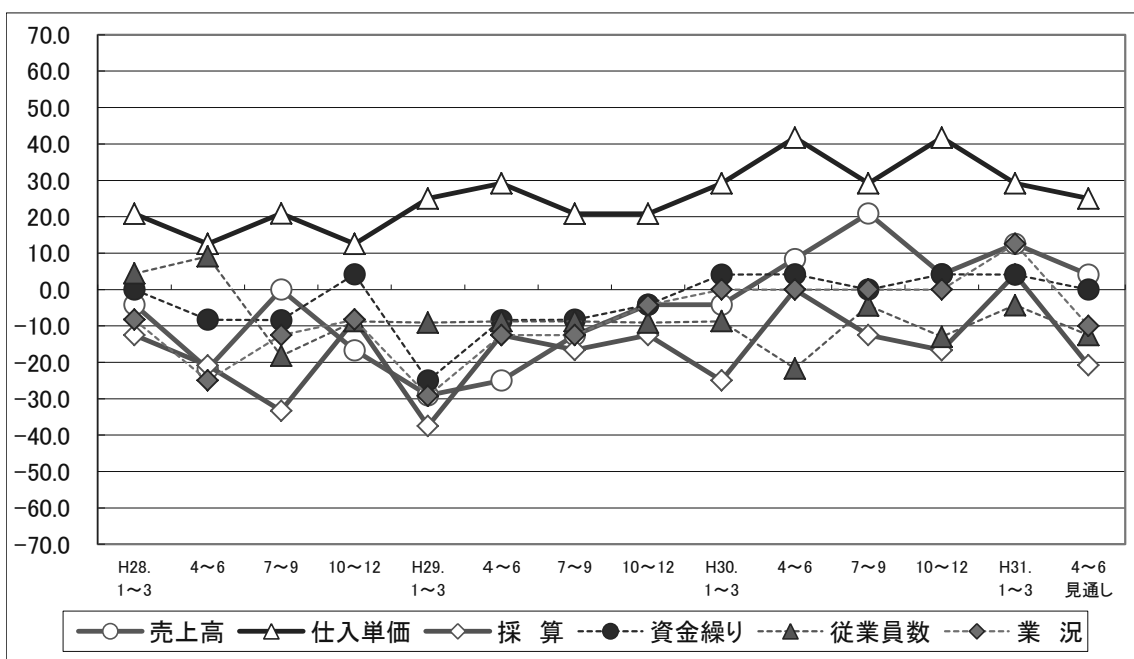
一方、新規設備投資の状況については、計画の15.8%に対し実施が10.5%と低調な投資状況となった。また、先行き（H31年4月 - R元年6月期）については、何らかの投資を予定する企業が8.1%にとどまり、投資マインドはさらに低下することが予想される。

最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「原材料価格の上昇」で最も多く18.7%（1位～3位までに挙げた企業37.5%）を占めた。次いで、「製品ニーズの変化」が15.6%（1位～3位までに挙げた企業31.2%）となっている。そのほか、個別の見解として、「全体的に材料代等が上がってきており、価格の見直し等の対策が必要である」や、「加工単価が数十年上がっていない中で、最低賃金の引上げや有給休暇の取得推進等は企業にとって悪影響となっている」といった政策に対する悲観的な声が目立った。

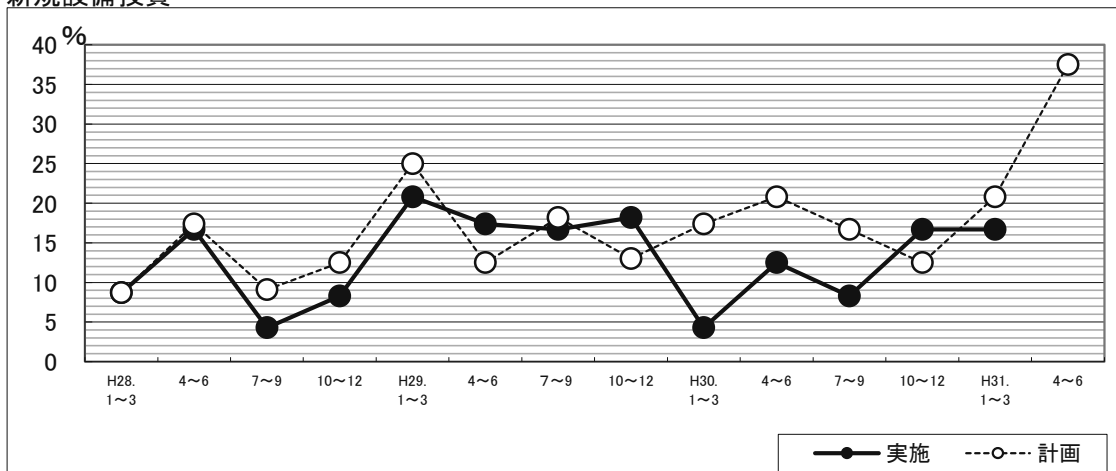
## 建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H28.1~3	▲ 4.2	20.8	▲ 12.5	0.0	4.4	▲ 8.3
4~6	▲ 21.8	12.5	▲ 20.9	▲ 8.3	9.1	▲ 25.0
7~9	0.0	20.9	▲ 33.3	▲ 8.4	▲ 18.2	▲ 12.5
10~12	▲ 16.7	12.5	▲ 8.3	4.2	▲ 8.7	▲ 8.3
H29.1~3	▲ 29.1	25.0	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 9.1	▲ 29.2
4~6	▲ 25.0	29.2	▲ 12.5	▲ 8.4	▲ 8.7	▲ 12.5
7~9	▲ 12.5	20.8	▲ 16.6	▲ 8.3	▲ 8.7	▲ 12.5
10~12	▲ 4.2	20.8	▲ 12.5	▲ 4.2	▲ 9.1	▲ 4.3
H30.1~3	▲ 4.2	29.2	▲ 25.0	4.1	▲ 8.7	0.0
4~6	8.4	41.7	0.0	4.2	▲ 21.7	0.0
7~9	20.9	29.2	▲ 12.5	0.0	▲ 4.4	0.0
10~12	4.2	41.7	▲ 16.7	4.2	▲ 13.0	0.0
H31.1~3	12.5	29.2	4.2	4.1	▲ 4.3	12.5
4~6見通し	4.1	25.0	▲ 20.8	0.0	▲ 12.5	▲ 10.0

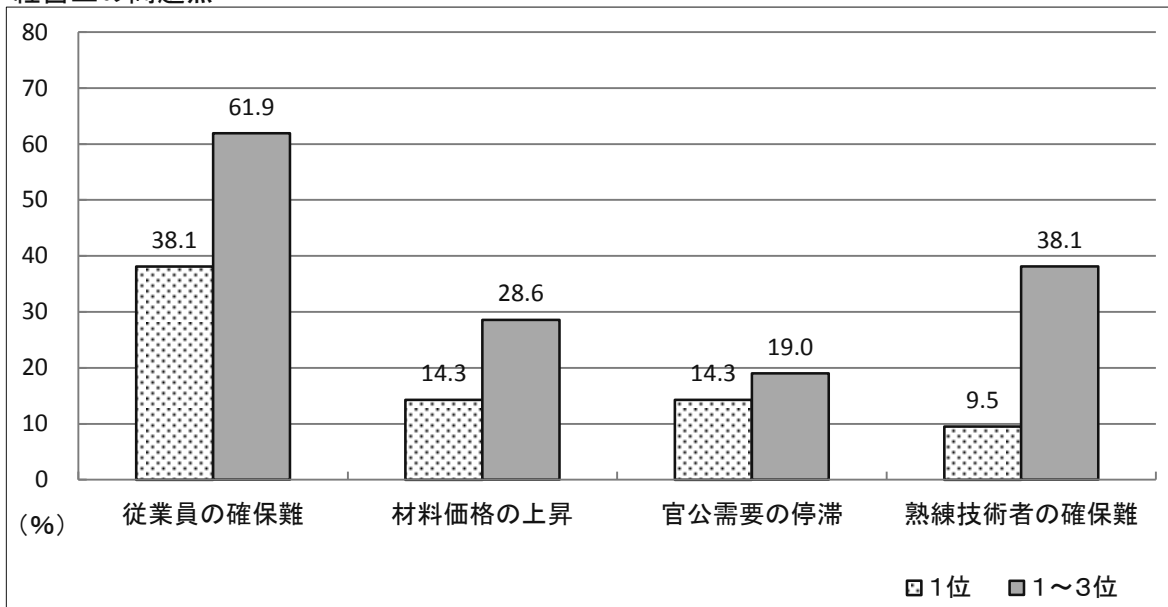


### 新規設備投資





## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・原油高、人件費上昇の影響により管材の値上がりが目立つ。長期的な採算面への不安が増加している。
- ・若手従業員の確保難である。

## 建設業の景況

福井県内における平成30年度（H30年4月～H31年2月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で1,307億37百万円の前年同期比14.2%増、発注件数は同3,331件の同3.1%減となっている。これを主な発注者別で見ると、独立行政法人等の関連工事で465億95百万円の同52.0%増、県関連工事等で410億23百万円の同4.9%増、国家関連工事で94億02百万円の同22.2%増となったものの、主力の市町村関連工事では316億37百万円の同10.4%減となり、前年実績を下回っている。一方、住宅投資については、平成30年4月～平成31年2月までの11か月累計で、前年同期比20.3%増の4,195戸であった。ちなみに、利用関係別では主力の持家が前年同期比15.1%増の2,073戸、貸家が同37.4%増の1,048戸となっている。

こうした中で今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目中、資金繰り（前期4.2→今期4.1）で悪化となったほかは全て改善傾向となった。ちなみに、改善項目をみると、売上高（前期4.2→今期12.5）、仕入単価（逆指数）（前期41.7→今期29.2）、採算（前期▲16.7→今期4.2）、従業員数（前期▲13.0→今期▲4.3）、業況（前期0.0→今期12.5）となっている。総じて、建設業の景況感他業種に比べ堅調といえる。ただ、先行き（H31年4～R元年6月期）については、5項目で悪化予測となっている。

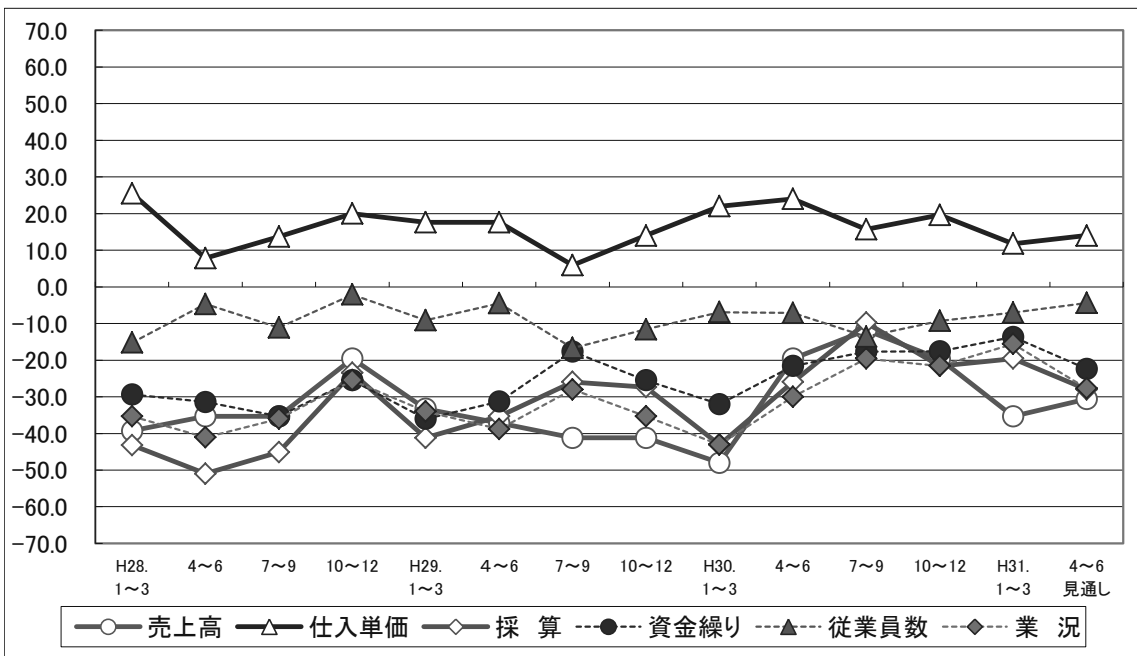
一方、今期の新規設備投資については、計画した企業20.8%に対し実施した企業が16.7%と計画を下回ったものの、先行き（H31年4～R元年6月期）については、何らかの投資計画を持つ企業が37.5%に達しており、旺盛な投資マインドが続くものと思われる。

最後に、経営上の問題点については、「従業員の確保難」が1位に挙げた企業ウエイト38.1%、1位～3位までに挙げた企業61.9%を占め、最多となった。個別の見解としては、「原油高、人件費上昇の影響により管材の値上がりが目立つ。長期的な採算面への不安が増加している」、「若手従業員の確保難である」といった悲観的な声が聞かれた。

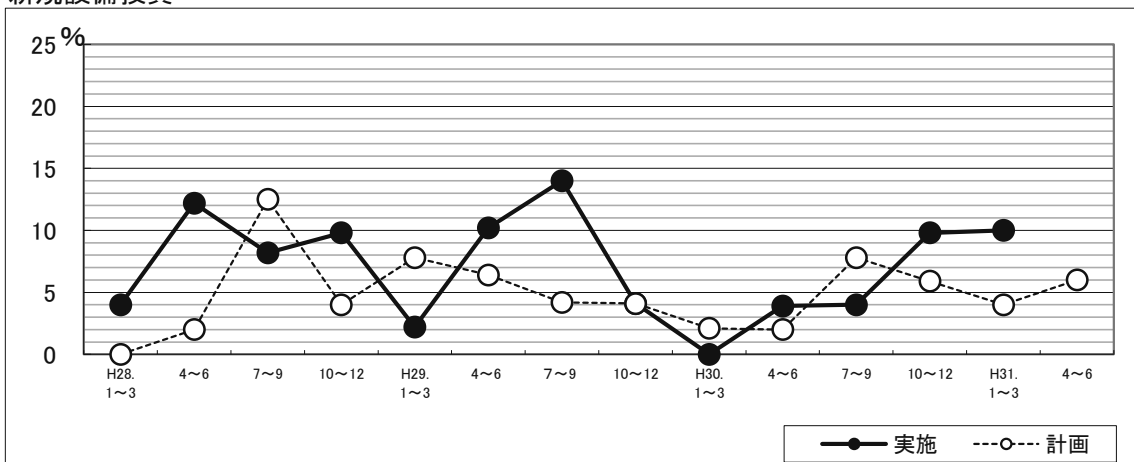
## 小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向(前年同期比:DI値)

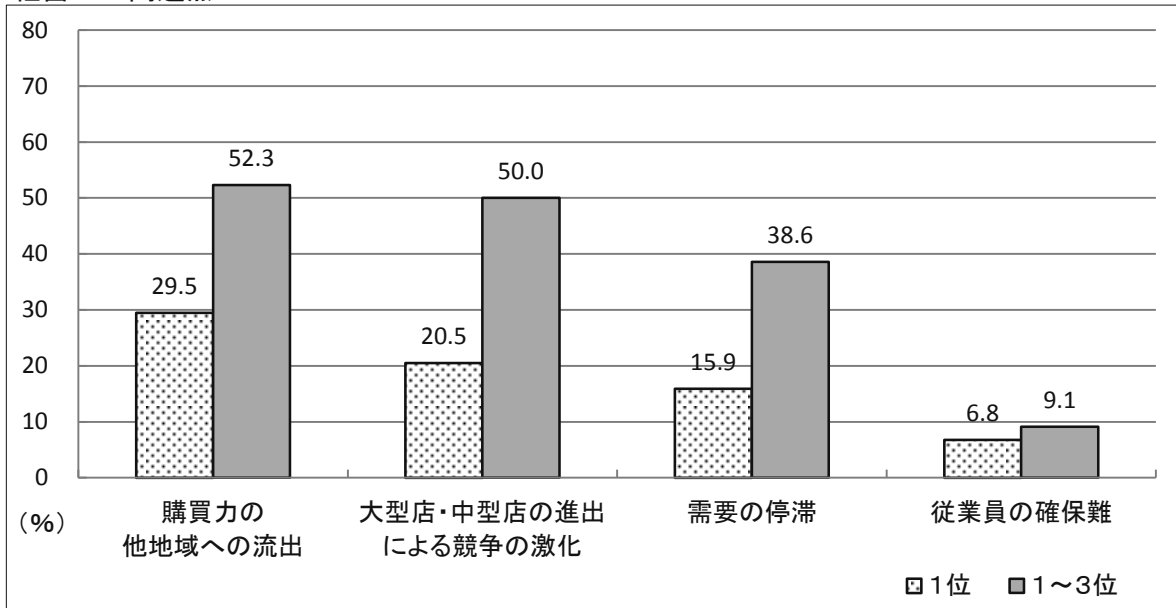
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H28.1~3	▲ 39.3	25.5	▲ 43.2	▲ 29.4	▲ 15.2	▲ 35.3
4~6	▲ 35.3	7.8	▲ 51.0	▲ 31.4	▲ 4.7	▲ 41.1
7~9	▲ 35.3	13.7	▲ 45.1	▲ 35.3	▲ 11.1	▲ 36.0
10~12	▲ 19.6	20.0	▲ 23.5	▲ 25.5	▲ 2.1	▲ 25.5
H29.1~3	▲ 33.3	17.6	▲ 41.2	▲ 36.0	▲ 9.1	▲ 34.0
4~6	▲ 37.2	17.6	▲ 35.3	▲ 31.3	▲ 4.5	▲ 38.8
7~9	▲ 41.2	5.9	▲ 26.0	▲ 17.7	▲ 16.7	▲ 28.0
10~12	▲ 41.2	14.0	▲ 27.4	▲ 25.5	▲ 11.6	▲ 35.3
H30.1~3	▲ 48.0	22.0	▲ 43.1	▲ 32.0	▲ 6.9	▲ 43.1
4~6	▲ 19.6	24.0	▲ 26.0	▲ 21.6	▲ 7.1	▲ 30.0
7~9	▲ 11.8	15.7	▲ 9.8	▲ 17.7	▲ 13.6	▲ 19.6
10~12	▲ 19.7	19.6	▲ 21.6	▲ 17.6	▲ 9.3	▲ 21.6
H31.1~3	▲ 35.3	11.8	▲ 19.6	▲ 13.7	▲ 7.0	▲ 15.6
4~6見通し	▲ 30.6	14.0	▲ 28.0	▲ 22.4	▲ 4.4	▲ 27.7



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・報道されている様な、景気回復の実感はない。消費税増税前は売上増加するだろうが、その後の反動が心配である。
- ・従業員の確保が困難な状況であり、時間外等人件費の増加利益を圧迫している。
- ・燃料需要が増加する時期だが、今年は暖冬により需要が少なく売上減少となった。

## 小売業の景況

最近の小売商況を外観すると、百貨店・スーパー販売に持ち直しの動きがみられるほか、ドラッグストア販売などは好調を持続、その他コンビニエンスストア、家電販売なども白物家電などが堅調であること。さらに、新車販売も復調しつつあることなどから、全体では緩やかに持ち直している。参考までに、近畿経済産業局が公表する平成31年2月の大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）をみると、前年同月比2.6%増の57億37百万円となっている。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目中、売上高を除く5項目で改善傾向を示した。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高が前期▲19.7→今期▲35.3、仕入単価（逆指数）が前期19.6→今期11.8、採算が前期▲21.6→今期▲19.6、資金繰りが前期▲17.6→今期▲13.7、従業員数が前期▲9.3→▲7.0、業況が前期▲21.6→今期▲15.6となっている。また、先行き（H31年4－R元年6月期）については、4項目で悪化予測となっている。

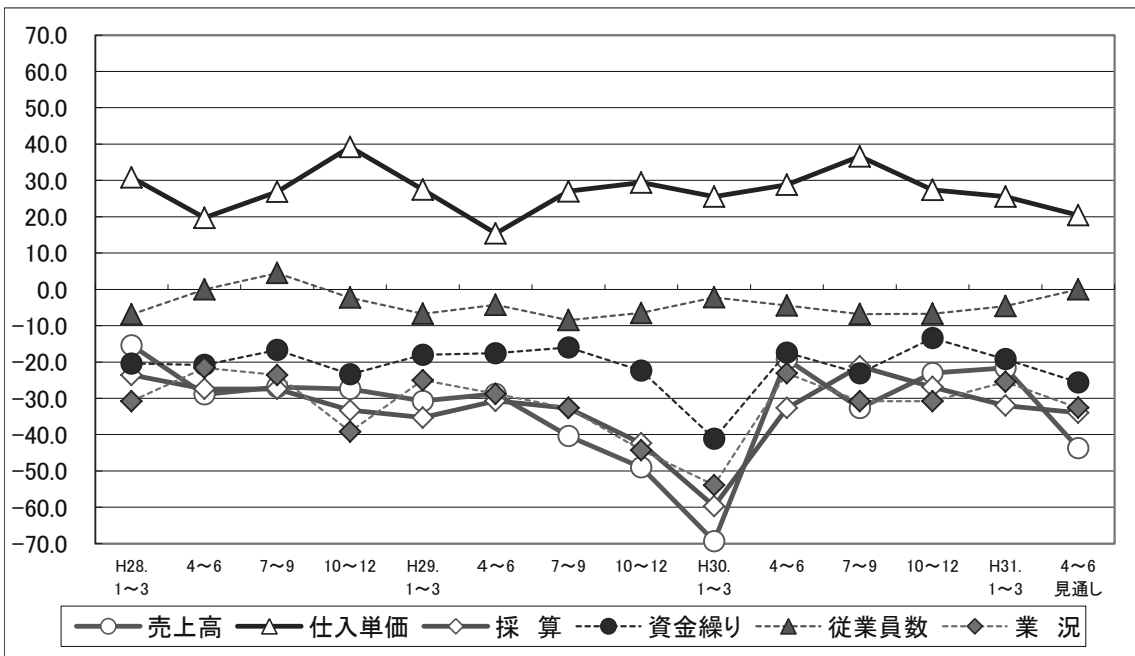
一方、新規設備投資の状況については、今期、計画の4.0%に対し実施は10.0%となり、低調ながらやや明るさが戻っている。先行き（H31年4－R元年6月期）については、何らかの投資を計画する企業ウエイトが6.0%にとどまり、投資マインドは依然厳しい。

最後に、経営上の問題点については、「購買力の他地域への流出」が最も多く、1位に挙げた企業ウエイト29.5%、1位～3位までに挙げた企業52.3%となった。次に、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が続ぎ、1位に挙げた企業ウエイト20.5%、1位～3位までに挙げた企業50.0%となっている。そのほか、「需要の停滞」や「従業員の確保難」への指摘もみられた。

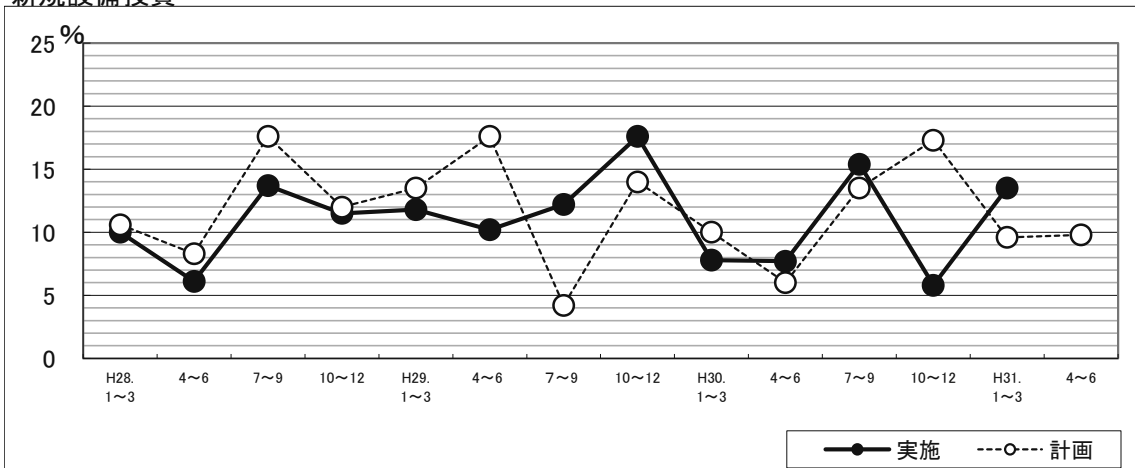
## サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向(前年同期比:DI値)

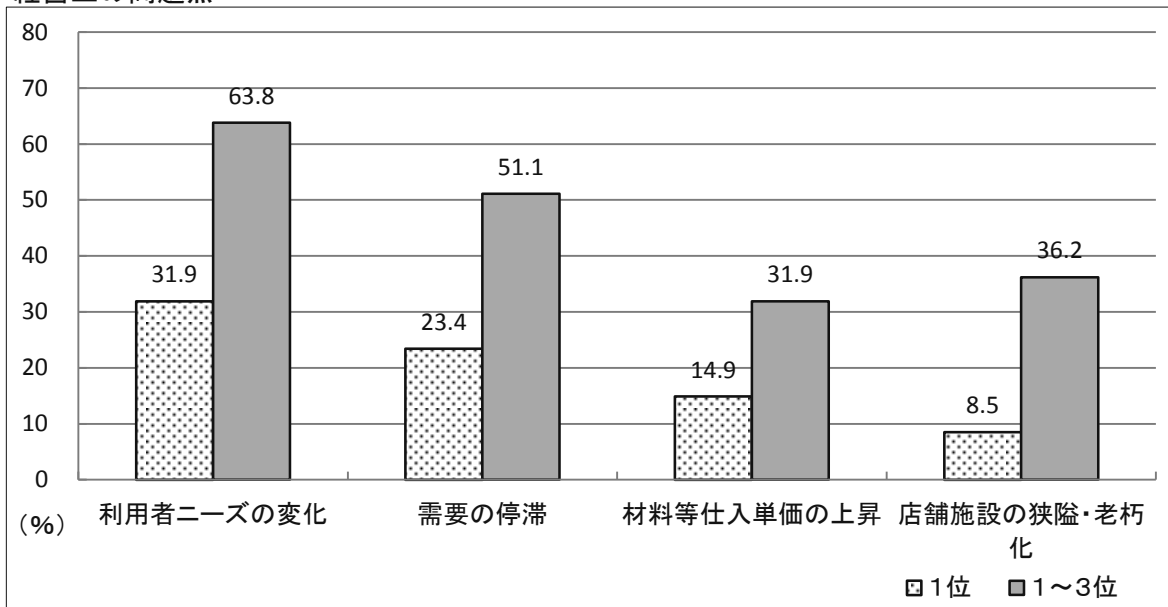
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H28.1~3	▲ 15.4	30.8	▲ 23.6	▲ 20.4	▲ 6.9	▲ 30.8
4~6	▲ 28.9	19.7	▲ 27.4	▲ 20.8	0.0	▲ 21.6
7~9	▲ 26.9	26.9	▲ 27.4	▲ 16.7	4.5	▲ 23.6
10~12	▲ 27.4	39.2	▲ 33.3	▲ 23.4	▲ 2.3	▲ 39.2
H29.1~3	▲ 30.7	27.5	▲ 35.3	▲ 18.0	▲ 6.7	▲ 25.0
4~6	▲ 28.8	15.4	▲ 30.7	▲ 17.6	▲ 4.3	▲ 28.8
7~9	▲ 40.4	27.0	▲ 32.7	▲ 16.0	▲ 8.5	▲ 32.7
10~12	▲ 49.0	29.4	▲ 42.4	▲ 22.4	▲ 6.5	▲ 44.3
H30.1~3	▲ 69.3	25.5	▲ 59.7	▲ 41.1	▲ 2.2	▲ 53.9
4~6	▲ 19.2	28.8	▲ 32.7	▲ 17.4	▲ 4.4	▲ 23.1
7~9	▲ 32.7	36.6	▲ 21.2	▲ 23.1	▲ 6.8	▲ 30.8
10~12	▲ 23.0	27.4	▲ 26.9	▲ 13.4	▲ 6.7	▲ 30.8
H31.1~3	▲ 21.6	25.5	▲ 32.0	▲ 19.2	▲ 4.6	▲ 25.5
4~6見通し	▲ 43.7	20.4	▲ 34.0	▲ 25.6	0.0	▲ 32.6



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・ 昨年の大雪の影響か、例年に比べ冬季の県外客が少なく業況厳しい。
- ・ 景気が好転する気配なく、消費意欲も低迷が続いている。消費税増税でさらに冷え込むことが懸念される。
- ・ ネット広告等の集客に向けた新たな取り組みを行っているが、想定していた程の効果がまだ見られない。継続的に販路開拓に取り組んでいきたい。

## サービス業の景況






総務省が毎月実施する「サービス産業動向調査」によると、全国におけるH31年2月のサービス関連産業売上高は30.1兆円で前年同月比2.0%増と、28か月連続の増加となった。増加に寄与した主な産業をみると、不動産賃貸業・管理などを含む「不動産業、物品賃貸業」が前年同月比4.3%増で、2か月ぶりの増加。また、道路貨物運送業を含む「運送業、郵便業」でも前年同月比2.7%増で、5か月連続の増加となっている。そのほか、技術サービス業などを含む「学術研究、専門・技術サービス業」でも前年同月比4.9%の増加、これも5か月連続の増加を記録している。





























































こうした中、今回の景況調査をみると、福井県の場合、DI値6項目中、4項目で改善、2項目で悪化傾向を示している。ちなみに、項目別では、売上高が前期▲23.0→今期▲21.6、仕入単価（逆指数）が前期27.4→今期25.5、採算が前期▲26.9→今期▲32.0、資金繰りが前期▲13.4→今期▲19.2、従業員数が前期▲6.7→今期▲4.6、業況が前期▲30.8→今期▲25.5となっている。こうした状況から、県内のサービス業でも、幾分改善傾向を示していることがうかがえる。ただ、先行き（H31年4-R元年6月期）については、仕入単価、従業員数を除く4項目で悪化予測となっている。

一方、新規設備投資については、計画9.6%に対し実施が13.5%と、実施が計画を上回り幾分の持ち直しがみられた。先行き（H31年4-R元年6月期）については計画値で9.8%と、以前厳しい投資マインドがうかがえる。

最後に、経営上の問題点については、「利用者ニーズの変化」（1位に挙げた企業ウエイト31.9%、1位～3位までに挙げた企業63.8%）への指摘が最も多い。また、個別の見解としては、「昨年の大雪の影響か、例年に比べ県外客が少なく業況が厳しい」、「景気が好転する気配無く、消費意欲も低迷している」、「ネット広告等の集客に向けた新たな取組を行っているが、効果が薄い」などの厳しい声が聞かれた。

全国・福井景気動向 平成31年1月～3月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 22.6	33.9	▲ 24.7	▲ 16.4	▲ 4.2	▲ 21.5
	製造業						
	DI値	▲ 18.4	44.0	▲ 21.1	▲ 14.6	0.2	▲ 16.2
	建設業						
	DI値	▲ 3.1	40.6	▲ 10.0	▲ 2.9	▲ 4.9	▲ 4.1
	小売業						
	DI値	▲ 37.9	22.3	▲ 33.0	▲ 23.6	▲ 5.9	▲ 34.4
	サービス業						
DI値	▲ 21.3	34.7	▲ 26.6	▲ 17.7	▲ 5.2	▲ 22.1	
福井	全体						
	DI値	▲ 19.6	29.2	▲ 24.4	▲ 16.3	▲ 7.9	▲ 22.2
	製造業						
	DI値	▲ 7.8	41.7	▲ 13.5	▲ 5.2	▲ 13.9	▲ 5.3
	建設業						
	DI値	12.5	33.3	▲ 8.3	0.0	▲ 12.5	▲ 12.5
	小売業						
	DI値	▲ 40.0	12.0	▲ 26.0	▲ 22.0	▲ 4.4	▲ 22.4
サービス業							
DI値	▲ 23.6	35.3	▲ 38.8	▲ 27.1	▲ 4.3	▲ 39.2	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。